

伊方原発 2 号機の廃炉決定にあたって

- (1) 絶対に事故を起こさないために 2 号機廃炉は当然であり、 3 号機も廃炉にすべきである。
- (2) 四国の電力は余っており原発は必要ない。
- (3) 県政は企業の後追いでなく、県民の命と暮らしのために脱原発を主導すべきである。

伊方原発をとめる会

(事務局次長 090-4500-3320 和田)